

佐渡米通信

こめる

2024年 8 月号

発行日:2024年8月

発行：佐渡農業協同組合 担当：総務部企画課 駒形(葵)
jasadosoumu02@snw.ocn.ne.jp

穂肥指導会開催

7月初旬からJA佐渡管内モデル圃場約70カ所で穂肥指導会が行われました。穂肥は品質・収量に大きく影響するので生育を見極めて適期適量の施用が重要となります。JA佐渡では昨年度から、より多くの生産者に生育診断をしてもらえるよう葉緑素計の貸し出しを行っています。また、生産者に向けた営農情報の発信をより適時に行えるよう、JA佐渡公式LINEアカウントの普及にも取り組んでおります。

指導会の中では熱中症対策の呼び掛けも行われました。昨年度全国で農作業中に熱中症によって緊急搬送された人数は直近5年で最多となり、中でも死亡者数は7月～8月に集中します。JA佐渡では、5M+1E（人、機械、材料、方法、測定、環境）の視点から適切な対策を啓蒙した佐渡米生産に努めて参ります。



雨の中での穂肥指導会の様子

佐渡の米農家さんにインタビュー

佐和田地区の茨城美鈴さんにインタビューさせて頂きました。茨城さんは「朱鷺と暮らす郷」認証米コシヒカリを7ha作られていて、尊敬していた実父の田んぼを守りたいと引き継いでから10年目のお米作りになるそうです。病床に伏す父を看ながら田んぼのことを3年間教えてもらえたことがかけがえのない時間だったそうです。

茨城さんはお米づくりの中でも催芽作業を厳密に行うことを大切にしているそうです。催芽とは種籾から芽を出す作業です。発芽の状況を常に確認するために一晩中催芽機の前で懐中電灯を照らしながら監視をし、芽が出るところを見ると毎回感動されるそうです。

田んぼ作業は基本的には茨城さんが主体でしているそうですが、息子さんの提案で機械更新の際に農業用ドローンの導入を決めたそうです。届いたばかりのドローンを横に、息子さんが免許を取得して防除を行ってくれるのだと嬉しそうに話されていました。

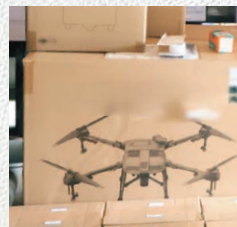
JA佐渡では農業を行うための省力化や農業資材のコスト低減の方法について生産者の規模に合わせた提案を行い、持続可能な農業経営の支援を続けて参ります。



農作業の合間に気分転換でフキをとったりもするよと笑う茨城さん



催芽機を説明



「ほやほやよ」と見せてくれたドローン



佐和田地区

「朱鷺と暮らす郷づくり」生きものが育まれる田んぼ

生きもの調査実施

認証制度加入者は年2回の調査が条件です



生きものを採取・観察し調査シートでチェック



田んぼの江にいたサドガエル